



お産を介助する毎にピンク（女の子）とブルー（男の子）の赤ちゃんのコメント用紙に思いを書いて貼っていきました。私たちがなりたい助産師像も綴りました。

170の奇跡に立ち会い“もう一度あなたに…”と言われる助産師をめざして!!

助産学科 第5期生 佐野優菜

私たち助産学科17名は、一人10例、みんな170例の分娩を介助し、国家試験を無事終わることができました。一つ一つのお産は同じではなく様々です。入院して準備する間もなくお産になる場合もあれば、回旋がうまくいかず帝王切開に至ることもありました。2日間に及ぶ陣痛に耐える産婦さんに、「元気な赤ちゃんが生まれてきてほしい」と強く思い、足浴やツボ押しで陣痛促進を図ったり、マッサージや呼吸法の誘導で産痛緩和をし、お産が進むよう産婦さんを励ましました。そして、無事赤ちゃんが生まれ対面したときは、「やっと会えたね」の言葉とともに感動の涙が流れました。一対一でゆっくりと時間をかけて関わることで助産の素晴らしさを感じました。貴重なライフイベントに関わらせていただく中で、赤ちゃんの生命力や命の尊さをこの手で感じると同時に、助産師の責任の大きさを感じました。不安をおぼえながらも授かった“命”を育む母性や父性にふれ、幸福のなか共に育児にむけての準備ができたこと、私達が実習を通して得た経験は一生の宝物です。これまで出会った方々への感謝の気持ちを胸に、赤ちゃんとお母さんに優しい助産師を目指して頑張ります。